

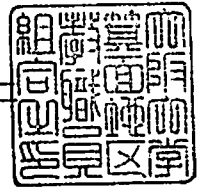
2017年3月10日

外国語学部長 殿
言語社会専攻長 殿

要 望 書

大阪大学箕面地区教職員組合

執行委員長 松本 健二



謹啓 箕面キャンパスにおける研究科、学部運営に関して平素から多大なご尽力をいただきありがとうございます。その箕面キャンパスに特化した労働環境の問題として、下記2点を要望させていただきますので、お忙しいところを恐縮ですが、約1月後の4月15日をめどに文書回答をいただきますよう、お願い申し上げます。

1. 休日勤務状況の改善について

箕面キャンパスで2016年度休日に実施されたイベントについて、2017年度以降、下記の通りの改善、あるいは改善に向けた具体的な検討を要望いたします。

1) 言語文化研究科言語社会専攻入試

2016年度は夏季7月31日(日)、冬季2月11~12日(祝・日)

2) 外国語学部オープンキャンパス

2016年度は8月11日(祝)

3) 外国語学部編入学試験

2016年度は12月3日(土)

これらの実施に当たって担当になった教職員は振り替え休日を取ることが義務化されていますが、入試など業務によっては短時間で終了するものもあり、社会通念上は休日出勤手当てを持って保障すべき業務です。また、年間に4回(AO入試やセンター入試等も含めるとそれ以上)休日出勤があるという労働環境は、特に子どものいる家庭をもつ事務職員にとっては決して良好なものではありません。

大学院の入試については、阪大の他研究科の多くが夏・春の授業のない期間の平日に実施しており、言語社会専攻でもたとえば夏季は8月の平日に、冬季は2月の平日に実施することが望ましいのではないのでしょうか。生涯学習に対する理解が浸透しつつある昨今、社会人でも平日に臨時休暇を取ることがじゅうぶん可能であると思われます。

オープンキャンパスも近年は高校が8月にツアーを組む等、訪問先や時期を限定しない

形での体験が普及しており、敢えて休日に実施する必要性はなくなっています。補講の実施をE棟などに集中させれば補講期間内の平日でも実施可能ではないでしょうか。

編入学試験は他大で授業が実施されない年末年始の平日に実施するなど、これも改善案が想定できます。

年間行事の制度設計については大学本部の意向もあるでしょうし、非常に調整が難しいことは分かりますので、もちろんこれらすべてを一度に実現するのは困難でしょうが、休日勤務機会を少しずつでも減らすよう具体的にご尽力いただけると幸いです。

2. 新キャンパスにおける組合事務室の確保について

数年後に移転が予定されている（仮称）新船場キャンパスで、現在箕面地区に当組合が有している事務室と同じ規模の事務室を確保していただくよう、要望します。

以上、2点をご検討のうえ、文書回答を松本まで御返送いただきたく存じます。なお、御回答については組合のHP等で一般公開させていただきます。

敬具